



①小田川の堤防が決壊し、多数の家屋などが浸水した岡山県倉敷市真備町（7月8日15時ごろ）②小田川付近では、いくつもの堤防が決壊した（写真は末政川）③土砂が堆積した岡山県高梁市落合町近似④土石流により住家の軒下まで埋没した広島県呉市天応⑤土砂により埋没した車（広島県広島市東区馬木）

※①～⑤の写真は国土交通省中国地方整備局からの提供。

災害から学ぶ ～平成30年7月豪雨～

平成30年6月28日(木)から7月8日(日)にかけて、北海道や東海地方、西日本などで長期間にわたって降り続いた非常に強い雨により、各地で河川の氾濫や浸水、土砂災害などが発生し、甚大な被害をもたらしました。

発生から1カ月が経過した8月7日時点においても、断水が続いていたたり、家屋が流されてしまったことなどにより、避難所での生活を余儀なくされている方が多く、復旧までに長い時間がかかると予想されています。

気象庁は、この原因となった大雨を『平成30年7月豪雨』と名付けました。

登別市は、北海道内においても比較的雨量の多い地域であり、これまでも数多くの水害などが発生しています。

長い年月をかけて実施してきた治水事業により、近年においては大規模な水害は発生していないものの、市内において大雨が降り続くことで、川の氾濫や土砂災害などが発生する可能性があります。

『平成30年7月豪雨』などを教訓にしながら、私たち一人ひとりが大雨に備えなければなりません。